

片貝中学校同窓会会報

第7号 2007年1月

片貝中学校 ☎ 0258 (84) 2030

☎ 0258 (84) 3880

<http://www.city.ojiya.niigata.jp/katachu/>

(中学校HP)

<http://www.katachu.com> (同窓会HP)

E-mail katachu@city.ojiya.niigata.jp

友窓

節目を迎えて



同窓会長

安達 隆

同窓会創設五十周年、現片貝
中学三年生が第六十回卒業生と
二つの節目を迎え今まで培って
きた歴史に「もうそんなに年数
がたっているのか」と再確認し
ている今日この頃です。

今、社会現象として、いじめ
や自殺が問題とされている中、
学校や保護者、地域が一体にな
って取り組まなければと言われ
ております。人と人、大人と子
供等、色々な人と関わりお互い
に支え合って協力しなければ日
常生活が成り立っていかないと
思われます。

私達同窓会々員でも早い人達
は子供や孫と一緒に同窓会の一
員だと言う家庭があると思いま
す。色々な特色を持った学年が
集まり相互に交流を持ち意見交
換をしながら子供と接する様な
雰囲気を作りたいものです。

お陰様で片貝には故郷を思う
気持ちを一抔持った東京片貝会
の方達もおります。

一人の力では何も出来ません
が地域の皆様方と協力しながら
活動していきたいと思えます。
今後共、宜しくお願い致します。

五十周年を迎えて



初代同窓会長

南波 謙一

新年明けましておめでとうご
ざいます。

本年は片貝同窓会五十周年を
迎え、誠に同慶に堪えず、早
い歳月の流れを実感しています。
顧みれば、昭和三十二年母校

創立十周年を契機に、同窓会が
会員相互の親睦と母校の発展に
寄与するという大きな理想を掲
げて設立され、当初の活動はお
盆の球技大会が主体で、五名の
役員にてチームワークよく同窓
会をリードしていたことが思い
出されます。

その後、卒業生の増加と共に
歴代会長の下に努力が積み重ね
られ、年々充実してきたと思い
ます。第四代本田会長の時に同
窓祭が創設され、昨年で十六回
を数えるに至り、毎年同窓会の
縦の線と同級会の横の線が結ば
れ輝かしい成果をあげています。

初回は、初代桜井校長ご子息
の東海大学桜井享教授の講演が
あり、その後、篠塚建次郎さん
の「パリダカールラリー」の講
演や、ジョージ本田さんの「マ
ジックショー」等が特に印象に
残っています。近年、母校々庭

の記念植樹で美化が図られたこ
と、全同級会名プレートが講堂
に設置され、第一回和好会より
第五十九回爽飛会までと同窓会
の歴史が刻み込まれ、生徒達へ
エールを送っています。

このような他に例をみない同
窓会の活動は、秋祭の節目に花
火行事を同級生が一丸となって
参加することと重なり、片貝中
卒業生としての誇りと固い絆を
発揮している所以であり、現在同
窓会は、第七代安達会長の下に
一層の進展が図られており心か
ら感謝と敬意を表する次第です。

また、東京片貝会が同窓会と
連携して、昭和五十八年より母
校を励ます会を設立し、毎年小
・中学校へ図書充実のために寄
贈や、教育講演会を開催され先
輩から生徒達へ将来の指針を語
って頂き、正に愛郷精神の賜物
と深く感謝しています。

ここで、第二代会長山口宏さ
んが昨年九月に逝去され、設立
当初から一緒に活動した仲間と
して誠に残念でありご冥福をお
祈りいたします。

最後に、本年は記念すべき同
窓会五十周年を迎え、改めて目
的達成のために協力し合って、
益々発展することを心から祈
念いたします。

片貝中学校は、今年度で創立
六十年を迎える伝統ある学校で、
卒業生六千五百二十二名になり
ます。平成十九年十月に創立六
十周年式典を行う予定です。

遠つ世ひらけし



第十九代校長

渡辺 清滋

「文武両道の精神」をもって、
中越の地をリードしてきた誇り
高い中学校であります。今の中
二、三年生は全県学力テストに
おいて、全ての教科で県の平均
を大幅に上回り、また部活動で
も県大会出場するという実績で
あります。

長岡へ、小千谷へと高い志を
もって進学し、「知」情「体」の
揺るぎない人格者へと邁進して
おります。

世の中はすさまじい勢いで変
化しております。しかし、片貝
中学校が培ってきた自ら勉学に
励み、体を鍛え、地域を愛する
構えはこれからも変わることな
く発展させてまいります。

「できる子とできない子の二
極化」では義務教育は崩壊しま
す。どの子にも学ぶ意欲をもた
せ、将来力強く生きていけるよ
うに全力を尽します。今後とも
ご支援をお願いいたします。

歴代同窓会長

- 初代 南波謙一 二回卒
- 二代 山口 宏 三回卒
- 三代 吉原芳郎 四回卒
- 四代 本田正史 十一回卒
- 五代 名塚孝一 十六回卒
- 六代 浅田正平 二十三回卒

歴代副会長

- 山口 恒・黒崎力男
- 小宮治郎・友田明石
- 名古屋美智子・藤塚 孝
- 小野塚 昇・吉原正幸

同窓祭の足跡

- 1回 講演 桜井 享(7回卒)
東海大学 工学部教授
「わが地球、わが太陽」
- 2回 講演 安達弘之(11回卒)
NHKコンピュータサー
ビス
- 3回 講演 小林一雄 松下電
送 顧問 工学博士
「フアクシミリ技術展望」
- 4回 講演 五十嵐 良享 片
貝中学校教諭
「全国制覇を目指して」
- 5回 講演 土屋蔵三 旭タク
シー社長

- 6回 講演 久保田三知男 小
千谷市役所 社会体育課
「我がスキー人生」
- 7回 ダンスパーティー
「懐かしのオールディーズ
ナンバーと楽しいひとと
きを」
- 8回 講演 篠塚 建次郎 ラ
リードライバー
「バリ、ダカ13万キロ風の
ように」
- 9回 ジョージ本田マジックシ
ョー 本田正次(18回卒)
講演 恩田 清(22回卒)
新潟脳外科病院副院長
「あなたの健康、本当に大
丈夫ですか」
- 10回 講演 松井 周之輔(23回
卒)新潟県教育庁文化行政
課
「子育てどつきり今昔物語」
- 11回 講演 吉井和夫(1回卒)
片貝伝統芸能保存会
「片貝まつりの歴史につい
て」
- 12回 記念植樹
同級会名プレート作成、
「校舎の遷り変り」上映
講演 金子正男 小千谷
市消防団副団長
「災害にそなえて(新潟県
中越地震での教訓)」

大爆笑同窓祭

第十六回同窓祭実行委員長
双葉会

小宮 泉

毎年、趣向を凝らして開催さ
れている片貝中学校同窓祭、さ
て今回は何をやるかで約一年前
から色々と考えてきました。

地震から二年余りが過ぎ、復
旧、復興に強い手ごたえを感じ
ながら心にも健康なイベントを
と思い、新潟落語会々長の水都
家艶笑師匠の落語独演会を企画
いたしました。

同窓会にはあまりなじみのな
い落語の公演でしたが、参加さ
れた皆様より「なかなか生で聞
いたことがない、すごくおもしろ
かった」と言う御好評をいた
だき大変ありがたかったです。

片貝まつりや花火のことを織
り交ぜながら約一時間の爆笑の
渦、また引き続きの懇親会と
参加された皆様から大いに盛り
上げていただき大変ありがと
うございました。

また同窓会役員、双葉会、鳳
凰会の学年実行委員の皆様、御
尽力により無事終わることがで
き感謝いたします。今後も同窓
会、同窓祭に皆様からの御協力
をよろしくお願いいたします。



秋季大祭への取組み

同窓会副会長
浅田 功

今年度も祭り前に総合センタ
ーにて、協議会、実行委員会、
同窓会、そして前年度成人、今
年度成人、及びその下の学年二
クラスの各代表に参加いただき、
秋季大祭における成人と若との
関わりや、取り組み等について
意見交換を行いました。成人会
費については、一人当たり十万
円前後の徴集とのことですが、
大半は親が払っているのが現状
の様です。今後、少子化に伴い
その負担は増すばかりと思われ
ます。「祝成人町民一同」の四尺
玉は、その負担軽減の一助にな
ればとの見方もあります。さて
「成人いじめ」と通称言われて
いる各支部による成人玉送り時
の応待ですが、今年度も祭屋台
に手を出す支部が一部でありま
した。成人が手を出せないこと
を分かっている行為ですから「いじ
め」としか言えません。今年度か
ら同窓会も成人の祭屋台に付い
て現状把握に乗り出しました。
今後、若い世代と話し合い
を持ち、協議会、祭実行委員会
と足並を揃え、取組みを継続し
て行きたいと思えます。



シェフたちがやつてくる

(4月3日)

一昨年に続き、昨年も東京都
司厨協会渋谷支店&シェフズク
ラブの方々にお越しいただきま
した。子供達は料理作り体験と
その後の食事会に大満足でした。
お忙しい中、多くの皆様に御
協力をいただきありがとうございます。

わが同級会

還暦 第16回卒 慰十六会 四十二才 第34回 実生会
 三十三才 第44回 飛翔会 成人 第55回 輝翔会



団塊の還暦行事

慰十六会々長

本田 正憲

私達は、戦後のベビーブームの時代に生まれた団塊世代の一期生として、片貝中学校第十六回卒業生二百名をもって、慰十六会を組織し卒業いたしました。以来早や四十五年、還暦行事の年を迎えました。顧ますと、社会の変革が、私達の節目の年に始まった事が多くあるように思います。片貝に保育園が生まれたこと、小学校・中学校の増築が始まったこと、受験競争という言葉が生れたこと等いろいろ変革がありました。団塊の世代が節目の年になると、社会が対応する為に変革するのだと思います。これからもまだ団塊世代のシルバー時代を迎え、変革が必要になります。私達は、今迄の経験を生かして、頑張りたいと思います。そんな意味を感じながら、還暦行事を計画し実施したいと思っております。

諸先輩方から受継がれた記念行事を立派に成功させ引継いでいきたいと思ひます。会員一丸となって頑張ります。同窓会、町民の皆様方のご指導ご協力を戴きますよう、どうぞよろしく、お願い申し上げます。

四十二歳厄年を迎えて

実生会会長

安達 仁

私も実生会は片貝中学校第三十四回卒業生です。現在六名の新規会員を迎え八十四名で活動しています。

会の名前は、「三十四に語呂が合っていること」と実生という言葉には「種から芽生える」という意味があり、私達も自分らしく成長していきたいという思いから、この名前に決まりました。しかし、卒業してから二十年以上も過ぎると、この種に例えられる私たち一人ひとり、その多くが、随分個性的に成長したようで、今年の同級会は祭りや体型などの話題で大いに盛り上がりました。

さて、今年はいよいよ記念行事の年です。私どもは、昨年十一月に事務所開きをしました。これも諸先輩から多くのご指導をいただいたおかげと思っております。諸先輩方のように立派なことに頑張ってくださいと思ひます。これからもご支援ご指導をよろしくお願いいたします。

厄祓記念行事に向けて

飛翔会会長

芝 雪絵

新年明けましておめでとうございませう。

私達飛翔会は片貝中学校第四十四回卒業生です。

会の名のごとく社会へ翔ばたいて十数年が経ち、あつという間に三十三歳厄祓の年になりました。

この度の記念行事を向かえるにあたり、一昨年十二月より会のブログ「THE飛翔会」を開設し、日頃会えない遠方にいる会員や、子育て中でなかなか同級会に参加できない会員ども、こちらの活動の様子や近況などを伝え合っています。

また昨年の秋季大祭では四年振りに飛翔会有志で花火を奉納、玉送りをし、会員の半数近い三十名が参加しました。皆が協力し合って積極的に準備を進める姿を見て、今年の厄祓記念行事も必ず成功できると確信しました。

秋季大祭の成功に向け、会員一同絆をより一層深めながら頑張っていけますので、町民の皆様、先輩の方々、ご指導の程よろしくお願い致します。



「輝翔会」

輝翔会会長

小宮 信太郎

僕達は今年成人を迎える輝翔会です。僕達の会は、例年に比べ人数が多く、個性的な仲間がたくさん集まってとても楽しい会です。僕は普段新潟で一人暮らしをしているので行事などがある時は、地元に残っている仲間が準備をしてくれています。

僕は、あまり準備等が手伝えないので頑張ってもらっています。地元の仲間は、協力し合っている僕は、とても感謝しています。だから会の代表として仲間をリードしようと頑張っています。

時には悩み事などがあると、一人で抱えこまず相談してきてよとみんなに言われたこともありとても思いやりがあり団結力がある会だなぁと思ひました。

僕達輝翔会の中には、すでに亡くなってしまった人もいます。その人のためにもみんなできり一致団結して、良い花火をあげたいという同じ目標に向かってがんばっていききたいと思ひます。いろいろ迷惑をかけると思ひますが、よろしくお願いいたします。



教育講演会と 母校を励ます会

東京片貝 母校を励ます会
会長 本田 秀幸

東京片貝会には郷里片貝を思う熱い人たちが集まっています。会員の継続した応援を受け、母校を励ます会は二十五年の長きにわたり母校に図書を贈り続け、また、母校の先生方、同窓会のご助力を受けて教育講演会も続けることが出来たものと感謝いたしております。

贈られた図書は小学校では「洋々文庫」として、また中学校では「ラベルを添付」して管理、活用されています。他校から赴任された先生から蔵書数の多いのに感心したとの手紙や児童、生徒からも読書の楽しさやお礼の手紙が会に届いており、一同大変喜んでおります。

会の教育講演会は五十歳の記念行事をするしるがね会から推薦いただき、長野県上田市に住む宮入祐子さんに講演をいただきました。『友達をたくさんつくろう』という演題で、上田市のステキ環境と豊富な交友を紹介いただき、友達を持つことの素晴らしさと実行の意義を教えてくださいました。生徒と小学六

年生がメモをとって熱心に聴講してくれ、いっしょながら感心しております。内容などはホームページで紹介しておりますので是非ご覧願います。

東京片貝会講演会を聴いて

しるがね会
安達 和弘

昨年の講演会では、私達しるがね会から五之町出身の宮入(旧姓・安達)祐子さんに登壇いただきました。

祐子さんは結婚後ご主人の実家のある長野県に住まいされ、仕事・主婦・家族の介護と忙しい中で、多くの友達を得て、充実した毎日をご過ごされています。この原動力は片貝町に生まれ育ったことにあり、友達によって世界がどんどん広がっていくことを話されました。

真剣に聞いてくれた生徒さんたちが、たくさん友人を作って広い世界に飛び出してください。ことをお祈りいたします。

新入会員 爽飛会 第59回卒業

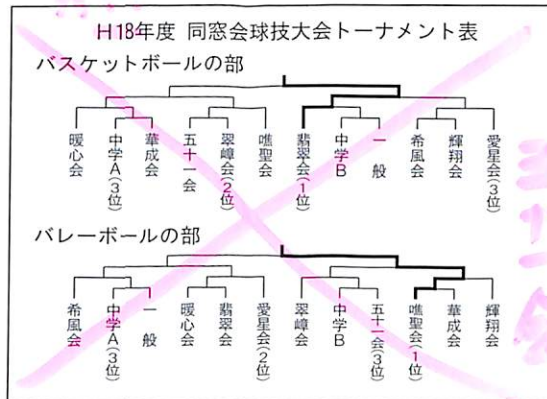
私たちの同級会名は「爽飛会」です。この名前には、
一・これから将来爽やかに飛び立っていききたい(成長したい)という思い。
二・「翼(つばさ) 学年なので「翼II飛」にちなんだ名前を付けたいという思いがこめられています。

同窓会入会式(三月二日)
西沢博明(つぐみ会)様より励ましの御講演、伝統芸能保存会様より木遣り指導をいただきました。



同窓会球技大会

バスケットボールの部
優勝 翡翠会
バレーボールの部
優勝 唯聖会



駅伝大会

- 総 第1位 合 片貝中学校バスケット部A
- 女子の部 第1位 バレーンジャー
- 小学男子の部 第1位 6年男子チーム
- 小学女子の部 第1位 チャレンジーズ
- 同級会の部 第1位 翔心会A
- 社会人の部 第1位 なかよししよかなチーム



編集後記

窓友も第7号となると同時に同窓会も設立から50周年を迎えることができました。今後も引き続き皆様からのご協力を宜しくお願いいたします。